

学校名	群馬県藤岡市立小野中学校
担当教員名	

活動のテーマ	生徒が自らの命を守る力を育てる防災・減災教育
主な教科領域等	教科領域（ 総合的な学習の時間 ）
アプローチ	※該当するものに口をつけてください（複数可） 地域連携 <u>避難訓練・避難所運営</u> <u>専門家の活用</u> <u>体験学習</u> 学校間・地域間交流 教科連携 地域発信 カリキュラム開発
活動に参加した児童生徒数	（ 全学年 296人 ）（複数可）
活動に携わった教員数	（21）人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	（20）人 【 <u>保護者</u> ・ <u>地域住民</u> ・その他（ ）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に口をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2024年 4月 7日 ～ 西暦 2025年 3月 26日
想定した災害	※該当するものに口をつけてください（複数可）。 地震 津波 <u>台風</u> <u>洪水</u> <u>河川氾濫</u> 土砂 その他（ ）

活動報告

1）活動の目的・ねらい

藤岡市の小野地区は、古くは明治43年に河川の氾濫があり、川に架かる橋や鉄道の鉄橋が流されるなどの記録が残されている。また、令和元年の台風19号の祭には、小野中学校の体育館が避難所となり、約350名の地域住民が避難し、一夜を明かした。藤岡市が出しているハザードマップでも、地域の大部分が浸水想定区域に指定されている。そこで、以下のような資質・能力の育成を目指す。

- 自然災害等の実態や現状、原因及び減災等についての理知・理解
- 直面する自然災害に対して危険を予測し、的確な思考・判断に基づき、自らの安全を確保するために行動する力
- 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする態度

2）実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

- ・ 4月 …第1回避難訓練（火災を想定し、避難場所・経路と危険箇所の確認 全学年）
- ・ 9月 …実態調査（生徒の防災に対する意識調査 全学年）
…防災講話（小野地区の河川氾濫、マイタイムラインの作成について 全学年）
- ・ 11月…自分のハザードマップを作ろう①（水害が起きたときの避難の仕方、対策方法を学ぼう 2年生）
- ・ 12月…自分のハザードマップを作ろう②（家から避難所までの安全な経路、危険箇所を見つけよう 2年生）
…自分のハザードマップを作ろう③（自分のハザードマップをつくろう 2年生）
- ・ 1月 …第2回避難訓練（地震を想定し、避難場所と危険箇所の確認 全学年）

3）9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

- 昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。
- ①自分たちの地域に起こりうる災害について防災講話を通して知ることができた。（助成金）講話を通して、防災教育を自分事化することができ、災害が起きたときの対策を家族で話し合い、マイタイムラインを作成した。（変更点）
 - ②自分の命は自分で守ることができるように、校外へ出て自分の避難経路の危険箇所などの写真を撮り、地域への理解を深め、じぶんだけのハザードマップ作成をすることができた。（変更・改善点）

4）実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

研修会で、減災教育が自分たちにとって必要なことであると実感するためには、災害が自分たちに起きる可能性があることを理解することであることを学んだ。そこで、「身近な災害」と「地域の理解」に焦点を絞り減災教育を実施することにした。小野地区では、過去に河川の氾濫が起きたこと、台風による浸水などが起きている地域であることを専門家の講演会を通して知ること、災害対策を自分事化することができた。そして、避難経路を災害が起きたときの視点で観察することで、安全な避難の仕方や経路について考え、自分用のハザードマップを作成することができた。また、家族でマイタイムラインを作成したり、避難所の確認をしたりするなど家庭で話し合う機会をもつことができた。

- ②児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。
- 実態調査のアンケートでは、家庭や地域で災害対策を話題にすることがある家庭は約20%、近所の危険な場所を調べ

ているのは約40%であった。実践後には、生徒の振り返りで「水害対策を知れたので、避難場所を親としっかり確認しておこうと思った。」「周りをよく観察してみて、自分が考えていた避難経路はやめた方がいいことに気付いた。途中には川があったり、家よりも低い場所を通ったりと水害時には危険な箇所があった。もし、避難するときはなるべく広い道をつかい安全に行動することが大切だと思った。」などの家族で相談しておくことの重要性や安全だと思っていたところに危険箇所があることが分かり、避難時にとるべき行動について気付けた生徒がほとんどであった。

③教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

防災講話を聞いた教師からは、校区が浸水被害に合う可能性が高い地域だということを初めて知り、防災教育の必要性を感じた。また、生徒と一緒に地域を監察してみると、冠水時通行止めの看板や注意を促す標識などがあり、浸水被害への注意が色々な所にあることに気付けた等の感想があった。

5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

防災教育を実践するために、生徒が防災教育を自分事として捉えることをスタート地点とした。専門家による講話やハザードマップによる危険性、過去の災害被害など身近な出来事を取り上げ、防災教育の必要性を感じられるようにした。水害への知識を深めるためにタブレットを活用してクイズ形式の問題にして取り組ませた。また、自分のハザードマップ作成もタブレットを活用させることで、写真撮影やコメント作成など、効率的に作業に取り組ませられた。

6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

災害が起きたときのきまりを決めておくだけでなく、自分の命は自分で守るためには、想定外のことに対応できるようになることが重要である。そのためには主体的に行動する力が必要であり、非認知能力や生きる力の育成をしていく。

総合学習の年間計画に組み込むなど、年間を見通した活動にしていく。また、防災教育は、地域の課題でもあるので、地域との連携をして、実践的な避難訓練などが重要になってくる。地域と連携をして、小中9年間の活動へと発展していきたい。

7) その他（※特にあれば記述）

※写真や画像、補足資料などがある場合は添付してください。写真は別途元データ（JPEG）もご提供ください。



防災講話のようす



生徒が作成したマイタイムライン



水害クイズに挑戦



ハザードマップを作成中



地域の危険な場所を探す活動



避難場所の様子を撮影

水害に備えた防災マップを作ろう

1. ねらい

- 地区の防災マップを作成することで、防災の意識を高めたり、災害時の行動を確認したりする。
- 防災マップを見て、災害時にとるべき行動について考える。

2. 実施計画

- (1) 学年 2 学年
- (2) 授業時間 3 時間
- (3) 準備 ・ 地域のハザードマップ
- (4) 実践内容

①水害について知ろう

ねらい 水害が発生したときの状況を知ること、災害発生時の避難行動を考えられる。

展開

学習活動	時間	指導上の留意点
○世の中にはどんな自然災害があるだろうか。 ・地震・津波・台風・洪水 など ○小野地区で過去にあった水害について知る。	1 0	○ニュースなどになっている自然災害を想定させることで、自分事になるようにする。 ○過去の出来事を知ること、さらに自分事にできるようにする。
○本時のめあてをたてる。 ○小野地区ハザードマップを見て、自分の家や避難場所などの確認をする。 ○水害クイズに取り組む。 ○水害クイズの答え合わせをする。 ○振り返りを書く。	2 0	○地域の身近な災害がめあてになるように、水害への意識を高める話をする。 ○タブレットを活用して、個活動の時間を確保する。 ○ハザードマップから自分の生活圏内の様子を想像させる。 ○タブレットを活用して個人で取り組めるように出題する。 ○生徒が問題を把握しやすいように、タブレットで取り組めるようにする。 ○水害時の注意点を明確にするために、全員で答え合わせをする。 ○災害を自分事の対策となるような振り返りがかけられるようにする。
○次回の活動内容を知る。 ○まとめ方を確認する。	2 0	○ハザードマップ完成のために、校外活動をする事を知らせる。 ○次回の活動に向けて、まとめ方を理解する。

②防災マップをつくろう

ねらい 災害発生時の危険箇所を見つけることで、自分だけの防災マップを作る。

展開（2時間続き）

学習活動	時間	指導上の留意点
○多目的室に集合。 ○校外活動のねらいを理解する。	1 0	○注意箇所を見つける視点を確認してから出発させる。

○通学路と自分の家から避難場所までを見て回り、水害発生時の危険箇所の確認をする。 ・用水路のそば ・土砂崩れや樹木倒壊 ・水が溜まりそうなところ（低いところ） など	5 0	○タブレットを活用して写真などで記録する。 ○近い地域の友達とは協力することを促す。 ○地域への迷惑行為に注意させる。
○学校に戻り、自分だけの防災マップを作成する。	4 0	○注意箇所が把握できたら学校に戻って、防災マップを完成させる。

(5) 校外活動について

時間	生徒への指導	教員の動き
13:25～ 13:35	○校外活動への指導：多目的室 《指導内容》 ・避難時の注意箇所を写真に撮る。 ・家の周りから避難所までの道のりを調べる。 ・14：30には、教室に戻る。 ・近所迷惑に気をつける。（周辺への意識）	○出発指導
13:35～ 13:40 ～14:30	○遠い地域の生徒から出発 ①立石、中栗須、中島 ②中、森新田、上栗須 ③森 ○校外活動	○駐輪場 ○校外巡視（活動の様子を撮影） ・立石方面 ： ・中栗須方面： ・森新田方面： ・学校周辺 ： ※担任は、14：15頃に教室に戻ってまとめ作業の指導をお願いします。 他の先生で、14：30頃まで校外巡視。
～15:15	○タブレットを使って、ハザードマップを作成し、提出する。	○まとめ作業の支援

自然災害について ～ 水害への対策 ～

2年 組 番氏名 _____

【めあて】

1. ハザードマップから、自分の避難場所を確認しよう。

2. 水害クイズ

1	2	3	4
5	6	7	8
9	1 0	1 1	1 2

3. 本日の振り返りを書こう。

4. ハザードマップ作成の振り返りを書こう。